

カムライグ語の母音の記述

小池 剛史

The description of vowels in Welsh

Takeshi Koike

Abstract :The purpose of the present study is to attempt a phonetic transcription of some Welsh words based on the principles of spelling and pronunciation summarized in *Orgraff yr iaith Gymraeg* ('The Orthography of the Welsh Language'), especially for the use of Welsh learners. Our focus is mainly on the length of monophthongs. Though the *Orgraff* suggests the three-term length opposition (long, short, medium), here the two-term opposition (long-short) is adopted, regarding 'medium' as a shorter variant of a long vowel. With the absence of standard pronunciation, but with the presence of standard spelling in the language, it is argued that,

at least for learners, phonetic transcriptions based on the spelling principles of the *Orgraff* may be used as a useful starting guideline for Welsh pronunciation.

カムライグ語学習者向けの教材や語彙集の中で、個々の単語の発音を表した音声表記が必要とされている。カムライグ語には標準と認められた発音がないことから、音声表記についても標準的なものがないⁱ。他方、カムライグ語の綴り字規則は完全に標準化している。従って、綴り字規則に基づいた音声表記は、実際の話し言葉との乖離は認められても、少なくとも学習者には発音の手引きとして有用であると考えられる。本発表では、カムライグ語の綴り字規則をまとめた『カムライグ語正書法』(*Orgraff yr iaith Gymraeg*, 1928; 以下『正書法』)に基づき、特に単母音の長短の表記の仕方に着目し、国際音声字母を用いていくつかの単語の音声表記を試みる。

『正書法』ⁱⁱによれば、カムライグ語の母音には、長 (hir)・短 (byr)・中間 (canolig) の三種類の長さがある。Jones (1984)は、カムライグ語音韻体系には、単母音では、緊張母音の /i, e, a, o, u/、弛緩母音の /ɪ, ε, a, ɔ, ʊ, ə/ⁱⁱⁱの二種類があり、強勢音節内では前者は長母音として、後者は短母音として発音される、としている。『正書法』で言及している中間母音とは、同じ長母音でも、単音節語よりも複音節語内の方が短くなることから、後者の場合の「短めの長母音」として設定された母音である。本発表では、音韻論的には長母音（緊張母音）と短母音（弛緩母音）の二種類を想定し、前者には長音記号 (:) を付す。中間母音には、長母音の記号に中間的長さの記号 (·) を付して標示する。

カムライグ語の単母音（南部方言の場合）

綴り	<a>	<e>	<i><u><y>	<o>	<w>	<y>
長母音	a:	e:	i:	o:	u:	
中間母音	a·	e·	i·	o·	u·	
短母音	a	ε	ɪ	ɔ	ʊ	ə ^{iv}

母音は弱音節内では常に短い、強音節内では長・短・中間のいずれかの長さとなる。母音の長さは、それを含む音節が語内に占める位置、またその音節の種類（開音節、閉音節）、また閉音節の場合は音節を閉じている子音の種類に拠ることが多い。以下に見るように、母音

の置かれている音韻的環境によってその母音の長短がある程度推測出来る場合には、その標示は綴りだけで十分であり、例外的に長い場合には、曲アクセント記号 (^) を母音の上に付す。以下に、単音節・複音節における単母音の長短に関する『正書法』記述を要約し、それに基づき上掲の音声記号を用いて単語の音声表記を行う。

【単音節の場合】 母音は長・短のいずれかになる。

(a)開音節の場合(母音の後に後続する子音がない):長母音となる。

ci /ki:/ 犬 ; da /da:/ 良い ; lle /le:/ 場所

(b)閉音節の場合(母音の後に子音が続く場合):

・音節が子音群で終わる場合には、母音は常に短くなる。

plant /plant/ 子供ら ; pump /pɪmp/ 5 ; merch /mɛrɣ/
少女

・音節が/p, t, k, m, N/のいずれかで終わる場合には、短母音になる。

het /het/ 帽子 ; llac /lak/ 緩い ; llong /lɔŋ/ 船

但し例外的に長母音となる場合には、曲アクセントを置く。

tâp /ta:p/ テープ ; sêt /se:t/ 席 gwrêng /gwre:ŋ/ 一般
民衆

・音節が/b, d, g, v, ð, f, ɣ, s /のいずれかで終わる場合、長母音となる。

byd /bi:d/ 世界 ; tad /ta:d/ 父 ; ceg /ke:g/ 口 ; haf /ha:v/
夏

・母音の後に/Lが続く場合、母音は南部では長くなるが、例外は多数ある。北部では短くなる傾向がある。このような事情から、-ll で終わる単音節語は、母音の長短を標示していない。

gwell /gwe:l/ (南部) : /gwel/ (北部) より良い

・母音の後に/l, n, r/ が続く場合、母音は長短両方の場合がある
(i) <i>, <u>の場合は、長母音となる(曲アクセントは必要なし)

hir /hi:r/ 長い ; tir /ti:r/ 大地 ; llun /li:n/ 写真

(ii) <a>, <e>, <o>, <w>, <y>は長母音・短母音両方の場合がある。長母音の場合にのみ曲アクセントを使用する。

câr /ka:r/ 愛する ; car /kar/ 車 ; tôn /to:n/ 音 ton /tɔn/
波

【複音節の場合】ここでは、強勢のある末尾第二音節内の母音についてのみ扱う。母音は長・短・中間のいずれかになる。

(a) 末尾第二音節が開音節の場合：長母音になる。

diog /'di:ɔg/ 怠惰な bisgïen /bɪsɪ'gi:ən/ ビスケット

(b) 末尾第二音節が閉音節の場合

・音節が二つ以上の子音で終わる場合は、短母音になる。

plentyn /'plɛntɪn/ 子供；pontydd /'pɔntið/ 橋（複）

・音節が/p, t, k, m, ŋ, l, s/のいずれかで終わる場合には、短母音になる。

ateb /'ateb/ 答え llongau /'lɔŋai/ 船（複）

・音節が/b, d, g, v, D, f, T, X/のいずれかで終わる場合、中間母音になる。

tadau /'ta:dai/ 父たち gobaið /go'baiθ/ 希望

・音節が /l/で終わる場合は、中間母音になることが多い。

caled /'ka:lɛd/ 固い Nadolig /na'do'lig/ クリスマス

・音節が/n, r/のいずれかで終わる場合は、母音は中間母音または長母音になる。前者は子音字1つ、後者は子音字を重ねて標示する。

bara /'ba:ra/ パン tonau /'to:nai/ 音（複）

cerrig /'kɛrɪg/ 石（複） tonnau /'tɔnai/ 波（複）

参考文献

Ball, M. J. & Jones, G. E. (eds.) (1984) *Welsh Phonology*. Caerdydd: Gwasg Prifysgol Cymru.

Bwrdd Gwybodau Celtaidd (1928). *Orgraff yr Iaith Gymraeg*. : Caerdydd: Gwasg Prifysgol Cymru.

Jones, G. E. (1984). 'The Distinctive vowels and consonants of Welsh', In Ball & Jones, pp.40-64.

Ball, M. J. & Williams, B. (2001). *Welsh Phonetics*. Lampeter: The Edwin Mellen Press.

註

i . Ball & Williams (2001) Chapter 1.

- ii. 『正書法』 §§23-29, §§37-45 (pp.15-18, pp.37-45)
- iii. ここで使用している音声記号は Jones (1984: 53-57)を参照した。Jones は、長短に関しては長母音（弛緩母音）、短母音（緊張母音）しか区別していない。
- iv. /ə/は常に短母音である。